

大掃除実施率と掃除の理由

- ・2022年末の大掃除実施率は51.8%。2021年末と同様、調査開始以来最低の実施率に。
- ・子育て世帯は全体より8.5%高い一方、シニア世帯の実施率は半数未満。
- ・大掃除をする・しない理由には、いずれも「普段掃除」が大きく関係。

2022年末の大掃除実施率は51.8%と、2021年末の実施率と同率となり、調査開始以来最も低い実施率でした(図1)。内訳を見てみると、18歳未満の子どもど同居する子育て世帯は全体よりも8.5%も実施率が高い一方、60歳以上のシニアと同居するシニア世帯では、全体より4%低く、半数未満という結果となりました(図2)。

また、大掃除した理由の1位には「普段の掃除で行き届かないところをキレイにしたいから」、一方で大掃除しなかった理由の1位にも「普段こまめに掃除をしている」が挙げられ、大掃除実施には普段掃除の取り組み具合が大きく関係していると言えます(図3・図4)。

図1：大掃除実施率（過去5年）

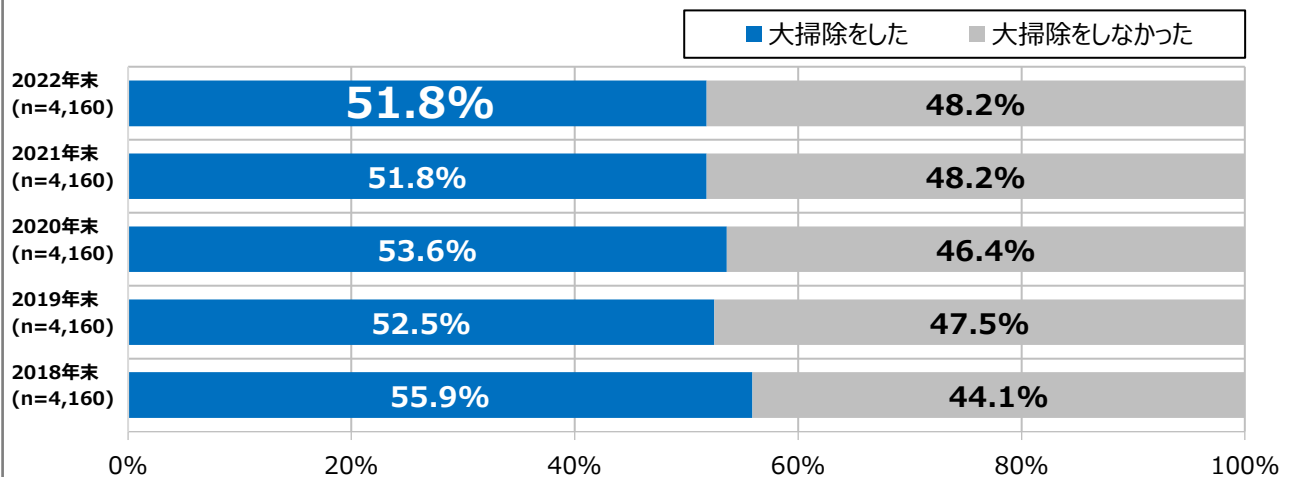


図2：大掃除実施率（属性別）

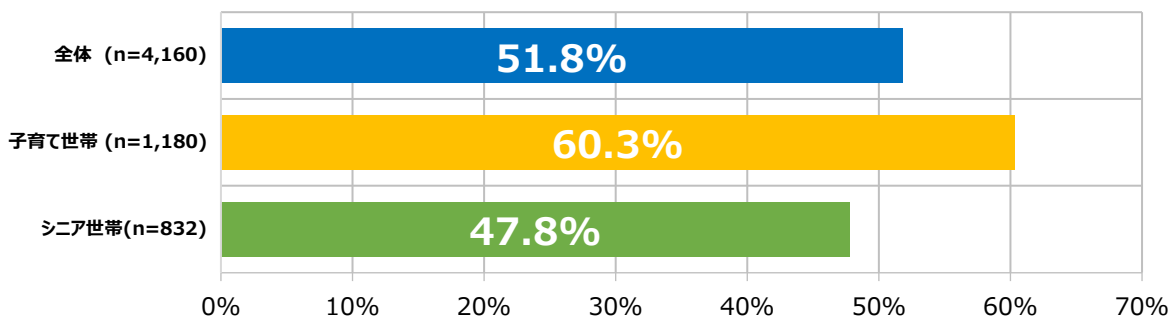


図3：大掃除をした理由（上位5項目）

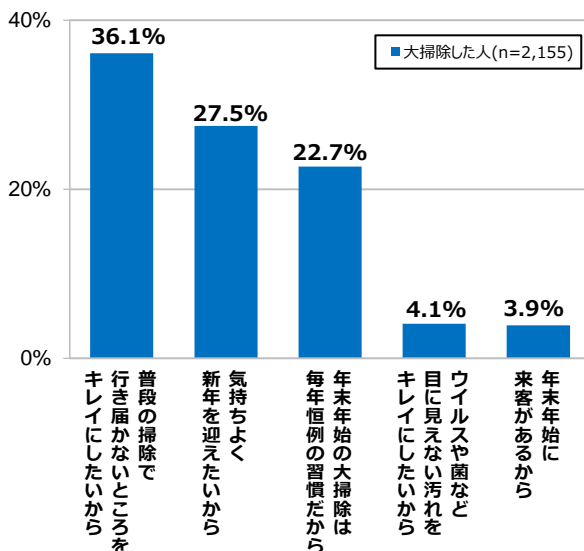
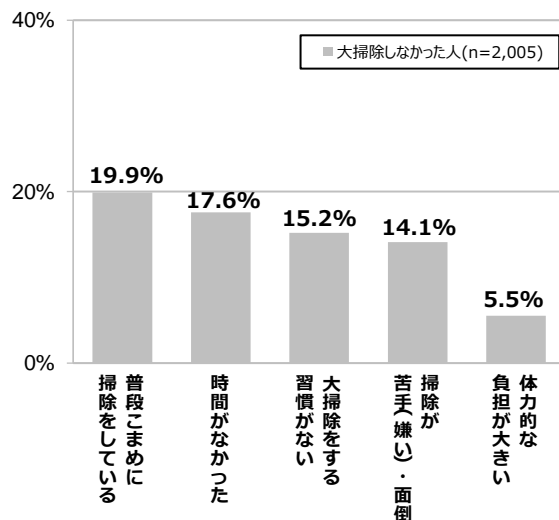


図4：大掃除をしなかった理由（上位5項目）



大掃除を実施した日、費やした日数と理由

- ・2022年末大掃除は平均2.7日間、平均8.3時間、12月最終週での実施が多数派。
- ・男性は「計画的に1日」、女性は「体力負担分散のため2日以上」で実施する傾向。

2022年末の大掃除は、費やした日数は「平均2.7日間」、トータルの掃除時間は「平均8.3時間」、そして実施日は「12月30日(金)」(31.1%)、「12月29日(木)」(29.3%)、「12月28日(水)」(20.9%) の順で多く挙げられ、12月最終週で実施した人は7割を超えることから大掃除は“大晦日直前”が多数派といえます(図5)。

また、大掃除日数は全体では「1日」(28.4%)が最多で、男性は「1日」(36.6%)、女性は「2日」(26.8%)が最多でした(図6)。その日数をかけた理由では、男性は「計画的に1日で実施した」(38.7%)が最多だった一方、2日以上かけた理由の女性の1位は「身体に負担をかけずに少しずつ大掃除をしたかった」(37.1%)でした。大掃除は“大晦日直前”が多数派といえど、女性は短期間でも体力的な負担を考えて2日以上に分散して大掃除に取り組んでいると推測できます。年末は何かと忙しいので、掃除場所の選択や掃除用具・洗剤などは先に準備しておくことがお勧めです。

図5：大掃除を実施した日(上位5日)

1位	12月30日(金)	31.1%
2位	12月29日(木)	29.3%
3位	12月28日(水)	20.9%
4位	12月31日(土)	16.1%
5位	12月27日(火)	12.7%

(2022年末に大掃除した人 n=2,155)

図6：大掃除に費やした日数(上位3日)

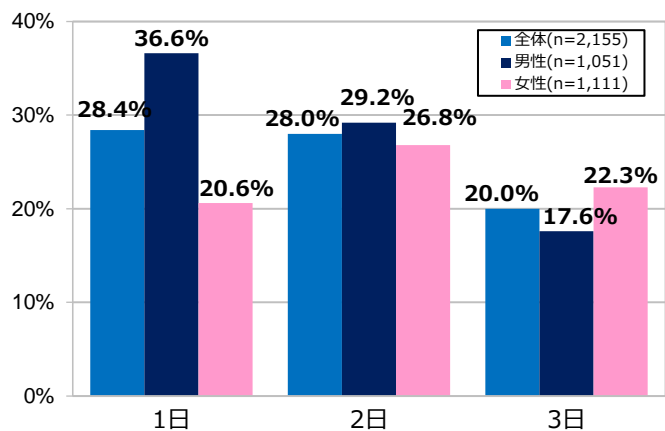


図7：大掃除に「1日」費やした理由(上位5項目)

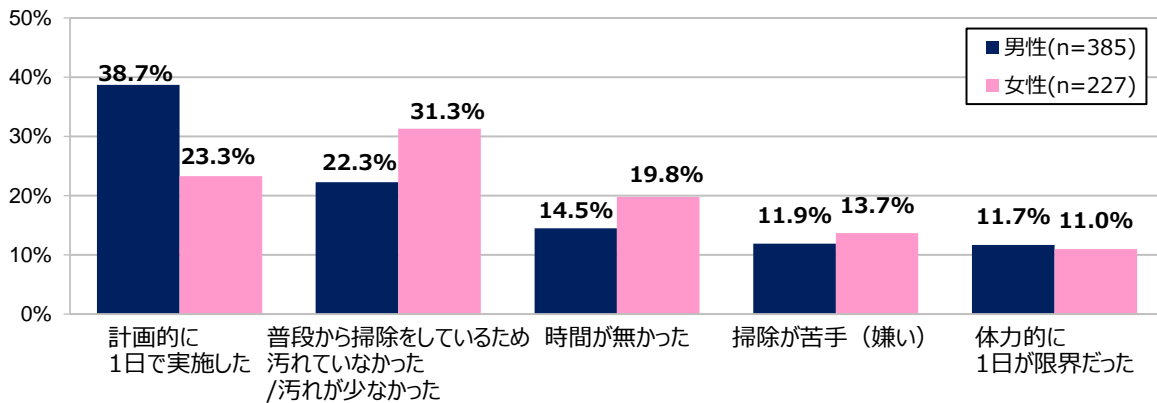
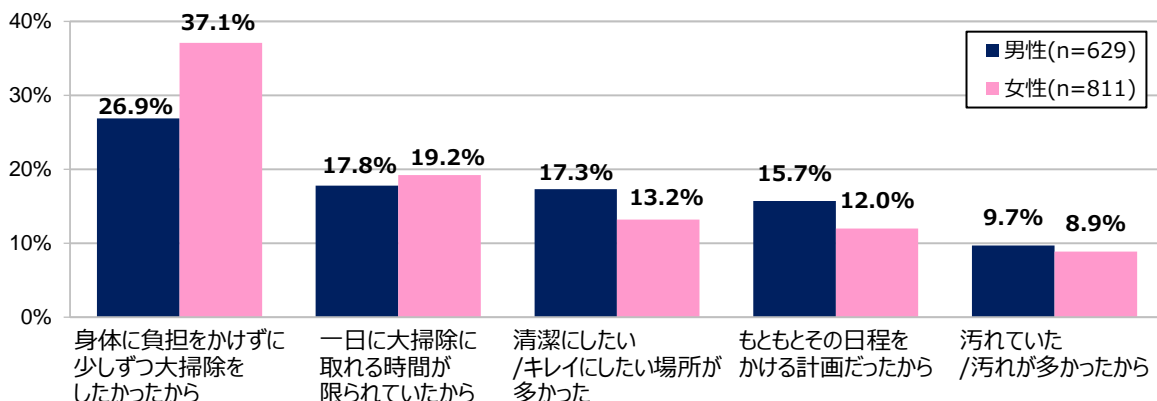


図8：大掃除に「2日以上」費やした理由(上位5項目)



大掃除で注力した場所と、プロへ依頼した場所と依頼理由

- ・苦戦場所は「レンジフード・換気扇」が調査開始以来14年連続の1位！
- ・プロへの依頼は「自分ではできない」「自分よりもキレイになった」と、80.2%が満足と回答。

2022年末の大掃除で掃除した場所を聞いたところ、平均で5.5カ所の掃除に取り組んでいることが分かりました。その中で「最も汚れが落ちにくかった場所」を聞いたところ、調査開始以来14年連続で「レンジフード・換気扇」が1位でした(図9)。「レンジフード・換気扇」は高所にあり、内部の汚れに気づきにくいため日頃はなかなか掃除がしづらい場所です。しかし油汚れを放っておくと酸化したり樹脂化してますます落とすしにくくなるため、1か月に1回はフィルターを交換するなど内部に汚れがつくのを予防する対策が大切です。そして1年に1回はプロに掃除を依頼するなどして汚れをしっかりと落とすことがお勧めです。

実際に「レンジフード・換気扇」の掃除をプロに依頼した人は80.2%が依頼に満足しており、その理由は「自分では掃除できない場所が掃除できた」「自分で掃除するよりもキレイになったから」などが挙げられました(図10)。いずれかの場所の大掃除をプロに依頼する人は2012年から2022年の10年で6.2%増加しています(図11)。家族で楽しく大掃除に取り組みつつも、毎年苦戦する場所や苦手な場所の掃除は早めにプロに依頼するなど、今年はぜひプロのサービスを活用してみましょう。

図9：「最も精力的に掃除した場所」と「最も汚れが落ちにくかった場所」(上位6カ所)

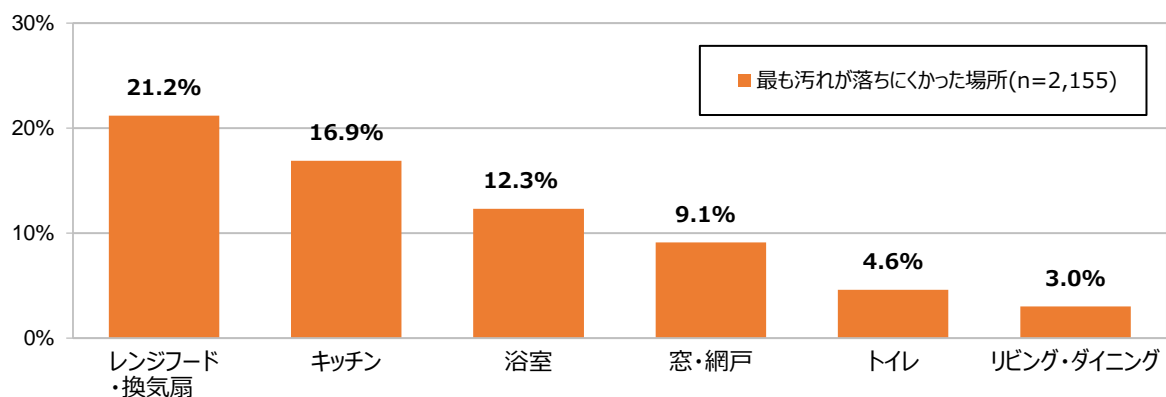


図10：「レンジフード・換気扇」掃除をプロに依頼して満足した理由

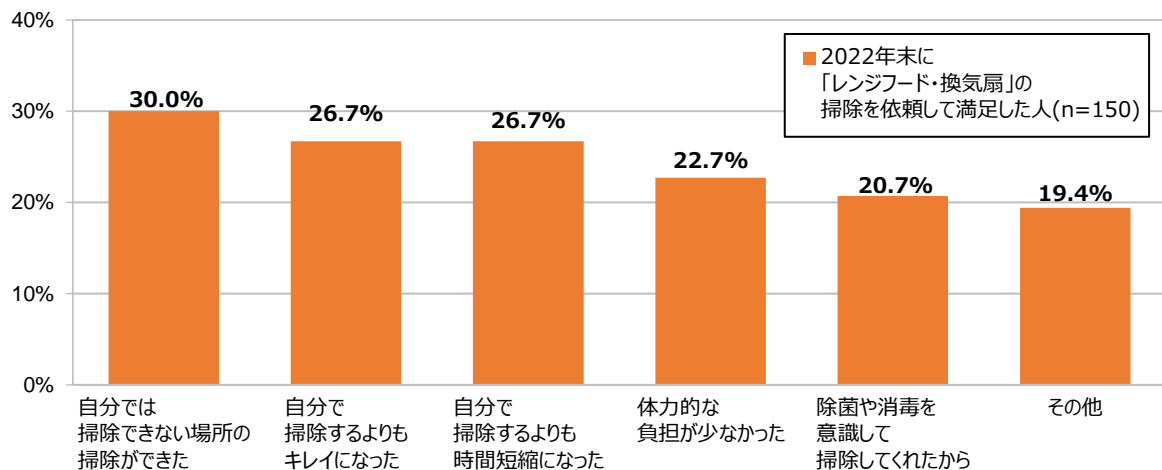
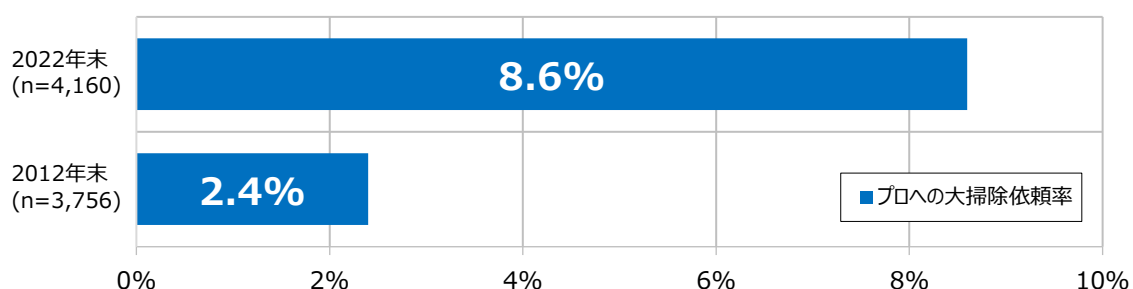


図11：プロへの大掃除依頼率(2012年末・2022年末)



夫婦の大掃除分担実態と、大掃除満足度

- ・夫は家族がしない/できない「窓・網戸」「浴室」を、妻は自分が一番よく使う「キッチン」、家族がしない/できない「トイレ」を担当。
- ・夫婦間の大掃除取り組み満足度は、20ポイント以上のギャップが。
- ・<エピソード紹介> 配偶者の大掃除の取り組みや言動に少しムツとした/イラっとしたこと

2022年末の大掃除で、夫婦が担当した掃除場所を見てみると、夫は「窓・網戸」「浴室」が、妻は「キッチン」「トイレ」が上位に挙げられました(図12)。また、それぞれの場所を担当した理由を聞いてみると、夫は「家族がしない/できない場所だから」、妻はキッチンは「自分が一番用使う場所だから」、トイレは「家族がしない/できない場所だから」「家族がよく触れるから」が30%以上の割合で挙げられるとともに、理由の4位に「感染症予防のため清潔にしておきたかったから」も挙げられたことから、コロナ禍の影響も推測されます(図13)。

さまざまな理由のもと夫婦が分担して大掃除していることが分かったところで、配偶者の大掃除の取り組みに対する満足度を聞いたところ、夫の妻への満足度が90.9%だったのに対し、妻の夫への満足度は68.8%と、夫婦間で20ポイント以上ものギャップがありました(図14)。つい相手の言動にムツとした/イラっとしたエピソードも聞いてみました。身に覚えのある方は、ぜひ2023年末の大掃除の参考にしてみてはいかがでしょうか。

図12：大掃除を担当した場所

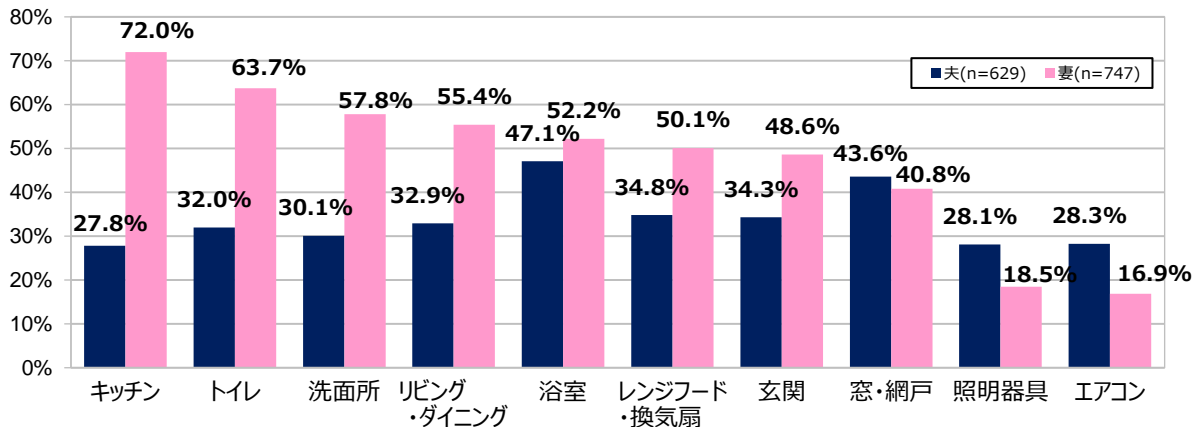


図13：その場所の掃除を担当した理由(上位3項目)

■ 夫

窓・網戸 (n=274)	
家族がしない/できない場所だから	38.3%
一番汚れている場所だから	24.5%
指示された場所だから	19.0%

浴室 (n=296)	
家族がしない/できない場所だから	27.7%
家族がよく触れる場所だから	21.6%
指示された場所だから	19.6%

■ 妻

キッチン (レンジフード・換気扇は除く) (n=538)	
自分が一番よく使う場所だから	60.0%
家族がしない/できない場所だから	30.1%
一番汚れている場所だから	29.0%

トイレ (n=476)	
家族がしない/できない場所だから	35.7%
家族がよく触れる場所だから	34.0%
一番汚れている場所だから	25.0%

図14：配偶者の大掃除の取り組みに対する満足度

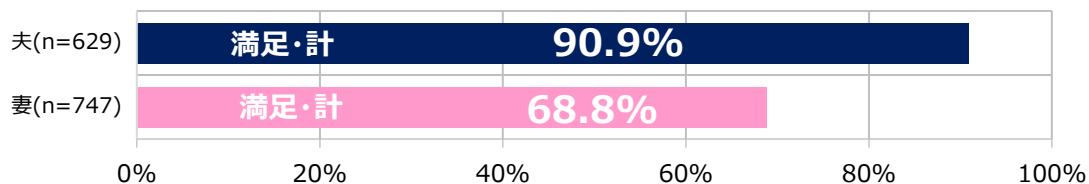


図15：配偶者の大掃除の取り組みや言動に少しムツとした/イラっとしたこと

全く/ほとんど動かない・参加しない など

- ・年末に1人で実家に帰省してしまい、掃除に参加してくれず少しムツとした。(男性/27歳)
- ・掃除してもらいたい場所を指示しても何かと難癖や理由を付けて協力的に行ってくれなかった事。(男性/62歳)
- ・自分はキレイ好きだと言いながら、何もしないところにイライラした。(女性/38歳)
- ・掃除している横で、全く何もしないでスマホを触ったりTVを見たりしているので。(女性/64歳)

態度が悪い・感謝の気持ちがない など

- ・やって当たり前の雰囲気。(男性/35歳)
- ・自分だけ頑張っているとされたときにむっとした。(男性/39歳)
- ・私が掃除するのが当たり前ではなく感謝の言葉だけでも欲しかった(女性/34歳)
- ・疲れてくると、もうこのぐらいでいいんじゃないと掃除を終わらせようとすること(女性/52歳)
- ・きれいになったことに気づかないし、感謝もしない。(女性/71歳)

【番外編】

- ・年未年始に実施した家事や整理整頓にまつわるもの。
- ・大掃除をがんばったことへの一番のご褒美とは？

大掃除を行っている途中でつい掃除以外のことが気になってしまったり、手を止めてしまった経験は、誰しもあるのではないのでしょうか。そこで年未年始に家事や整理整頓にまつわる事柄をどの程度取り組んでいるのか聞いてみたところ、「不要物の処理・廃棄」が最も高く、それ以外にもあらゆる家事が挙げられました。ただでさえ忙しい年未年始なので、大掃除以外の家事も効率よく実施できるよう、予めリスト化しておくなどを工夫してみてください。

そしてさまざまな家事や大掃除が終わったあのご褒美は何なのか、自由に回答してもらいました。お酒やご馳走などが多く挙げられた一方で、キレイになった空間や頑張りへの労いの言葉という大掃除だからこそ得られるご褒美を挙げる方も！2023年の大掃除も、ぜひ心と時間に余裕をもって、家族で協力して楽しく取り組んでみましょう。

図16：年未年始に実施した家事や整理整頓にまつわるもの

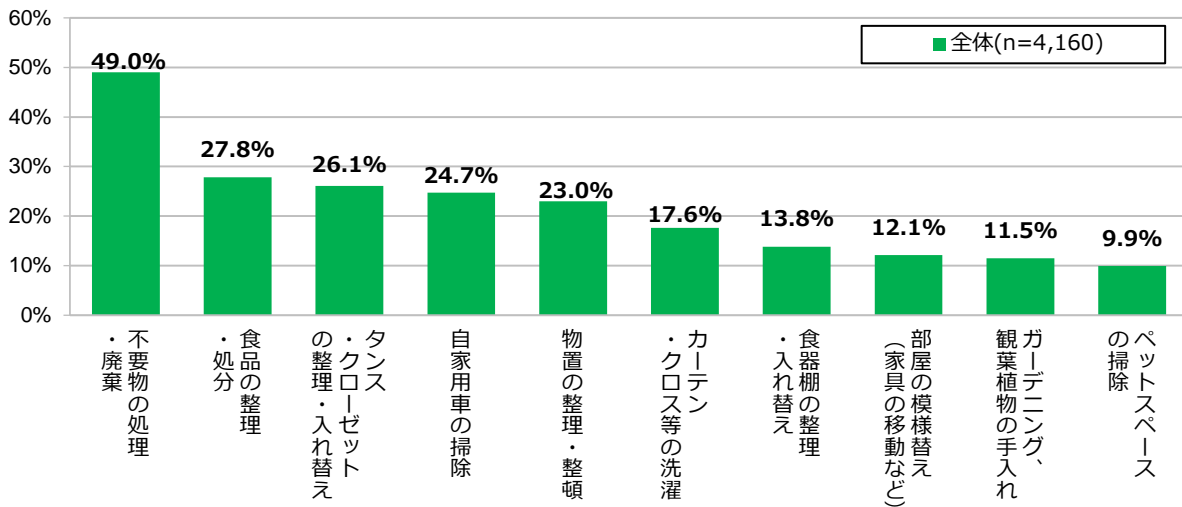


図17：大掃除をがんばったことへの一番のご褒美

食べ物・飲み物

- ・キンキンに冷えた缶ビール(男性/20歳)
- ・大掃除後にお菓子やアイスクリームなどのデザートを食べたことです。(男性/25歳)
- ・正月のお疲れ様のおせち料理と晩酌(男性/44歳)
- ・大晦日の夕方までに大掃除を終わらせて、夜にテレビを見ながらごちそうを頂くこと。(男性/46歳)
- ・高級チョコ(女性/32歳)
- ・美味しいいちご大福を買って食べたこと。(女性/48歳)
- ・きれいになった部屋で、ワインを飲む。(女性/66歳)

キレイな空間

- ・綺麗になって気持ち良い運気が上がりそう(女性/56歳)
- ・掃除をした場所がきれいになったので家にいる時間が楽しくなったかな。(男性/53歳)
- ・普段の掃除では出来ない箇所がきれいになり、気持ちよく過ごせること(男性/43歳)
- ・きれいになった浴室の浴槽にお湯をため、お気に入りの入浴剤を入れて入浴すること。(男性/63歳)
- ・新年にきれいなキッチンを使えて気分がいい(女性/46歳)
- ・家がキレイだと精神的に安定する気がするので1番のご褒美です。(女性/44歳)

家族・同居人からの感謝

- ・家族から褒めてもらうこと、感謝してもらうこと(女性/56歳)
- ・妻の労いの言葉(男性/59歳)
- ・家族から家がきれいになったと言われる事(男性/60歳)
- ・ほかのひとからの綺麗になったという言葉(女性/28歳)